

9 月 の 都 内 経 済 状 況







営業開発部

項目	天気図	コメント
現在の景気動向		9月の都内の景気は緩やかに回復している。百貨店・スーパー・コンビニエンスストアの売上は、いずれも連続して前年を上回っているが、乗用車販売は3ヵ月連続で前年を下回った。住宅着工、公共投資はいずれも2ヵ月ぶりに減少した。輸出は15ヵ月連続で増加したが、増加幅は小幅に止まった。有効求人倍率は6ヵ月連続で上昇した。工業生産(8月)は2ヵ月連続で前月から減少した。27年度上期の設備投資、経常損益は、いずれも前年を上回る見込みとなっている(法人企業)。
今後の見通し(3ヵ月)		都内の景気は引き続き緩やかな回復が期待されるが、中国など海外景気の下振れなどが今後のリスク要因となっている。
個人消費	百貨店売上高	 百貨店売上高は、前年同月比3.5%増と6ヵ月連続で前年を上回った(既存店ベース)。主力の衣料品は、月前半の悪天候の影響で減少したが、シルバーウィークの好天などに支えられ、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品は増加した。化粧品、美術・宝飾・貴金属は、訪日外国人客の増加などから高い伸びが続く。
	スーパー売上高	 スーパーの売上高は、前年同月比1.8%増と6ヵ月連続で前年を上回った(既存店ベース)。シルバーウィークの大型連休で売上が押し上げられた。
	コンビニ売上(関東)	 関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比4.9%増と31ヵ月連続で前年を上回った(全店ベース)。淹れたてコーヒーなどのカウンター商材や、シルバーウィークの行楽需要でおにぎり、弁当、総菜などの中食が好調に推移した。
	乗用車登録台数	 乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比▲8.9%と3ヵ月連続で前年を下回り、減少幅も前月から6.7ポイント拡大した。車種別でも、普通車(同▲6.9%)は2ヵ月連続で、小型車(同▲2.7%)は3ヵ月連続で、4月から増税となった軽乗用車(同▲23.5%)は9ヵ月連続でそれぞれ減少した。
住宅建設		住宅着工戸数は、前年同月比▲8.2%と2ヵ月ぶりに前年を下回った。利用関係別では、分譲一戸建て(同2.0%増)は2ヵ月連続で、貸家(同18.1%増)は4ヵ月連続で増加したが、持家(同▲4.3%)は2ヵ月ぶりに、分譲マンション(同▲39.0%)は3ヵ月連続で減少した。
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比▲13.7%と2ヵ月ぶりに前年を下回った。発注者別では、国(同82.7%増)、地方公社(同27.3%増)は増加したが、独立行政法人(同▲16.5%)、東京都(同▲17.2%)、市区町村(同▲28.8%)は減少した。
貿易(東京税関管内)		東京税関管内の輸出額は前年同月比4.5%増と15ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は小幅に止まった。主要地域別では、アメリカ向け(同7.8%増)、中国向け(同4.2%増)、アジアNIEs向け(同7.9%増)、ASEAN向け(同8.5%増)は増加したが、EU向け(同▲4.7%)は減少した。
設備投資(法人企業)		東京財務事務所「法人企業景気予測調査(27年7~9月期調査)」によると、都内の法人企業(資本金1千万円以上)の27年度上期の設備投資計画額は、全産業が前年同期比18.7%増、製造業が同27.5%増、非製造業が同13.6%増の見込みとなっている。
企業収益(法人企業)		同上調査によると、都内の法人企業(同上)の27年度上期の経常利益は、全産業が前年同期比10.0%増の増益見込みで、業種別では製造業が同32.5%増の増益見込み、非製造業が同▲1.2%の減益見込みとなっている。
労働需給		有効求人倍率(季調値)は1.83倍と、前月から0.01ポイント上昇した。上昇は6ヵ月連続。先行指標とされる新規求人数は前年同月比1.8%増と2ヵ月連続で前年を上回った。南関東の完全失業率は3.2%で、前月から0.2ポイント低下した。完全失業率の改善は2ヵ月ぶり。
企業倒産		企業倒産件数は前年同月比▲27.9%と2ヵ月連続で減少したが、負債総額は東証一部上場企業の倒産で同681.5%増と2ヵ月ぶりに増加した。1~9月累計の倒産件数は全体が前年同期比▲13.3%で、業種別ではサービス業(同▲8.4%)、製造業(同▲13.0%)、建設業(同▲31.3%)などが減少し、卸売業(同1.9%増)が増加した。
資金需要(銀行)		銀行の都内向け貸出残高は前年同月比4.8%増と49ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は前月から1.0ポイント縮小した。増加幅の縮小は3ヵ月ぶり。

工業生産指数(季調値) ()は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ()は前年同月比%	消費者物価指数 ()は前年同月比%	(一〇メモ) 65%の企業が来年度人員に不足感 とみん経営研究所が、同社の会員企業に対して10月に実施したアンケート調査によると、来年度の自社の人員について不足感を持つ企業の割合は65%であった。また、必要人員確保のための対応として最も多かったのは、中途正社員の採用、次いで新卒正社員の採用であった。
6月 101.0 (▲3.1)	6月 119.2 (▲5.3)	7月 102.0 (0.1)	
7月 99.2 (▲5.6)	7月 111.4 (▲13.1)	8月 102.2 (0.1)	
8月 98.2 (▲2.0)	8月 103.5 (▲20.7)	9月 102.2 (▲0.1)	

*工業生産指数・在庫指数、消費者物価指数は2010年平均=100。*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨